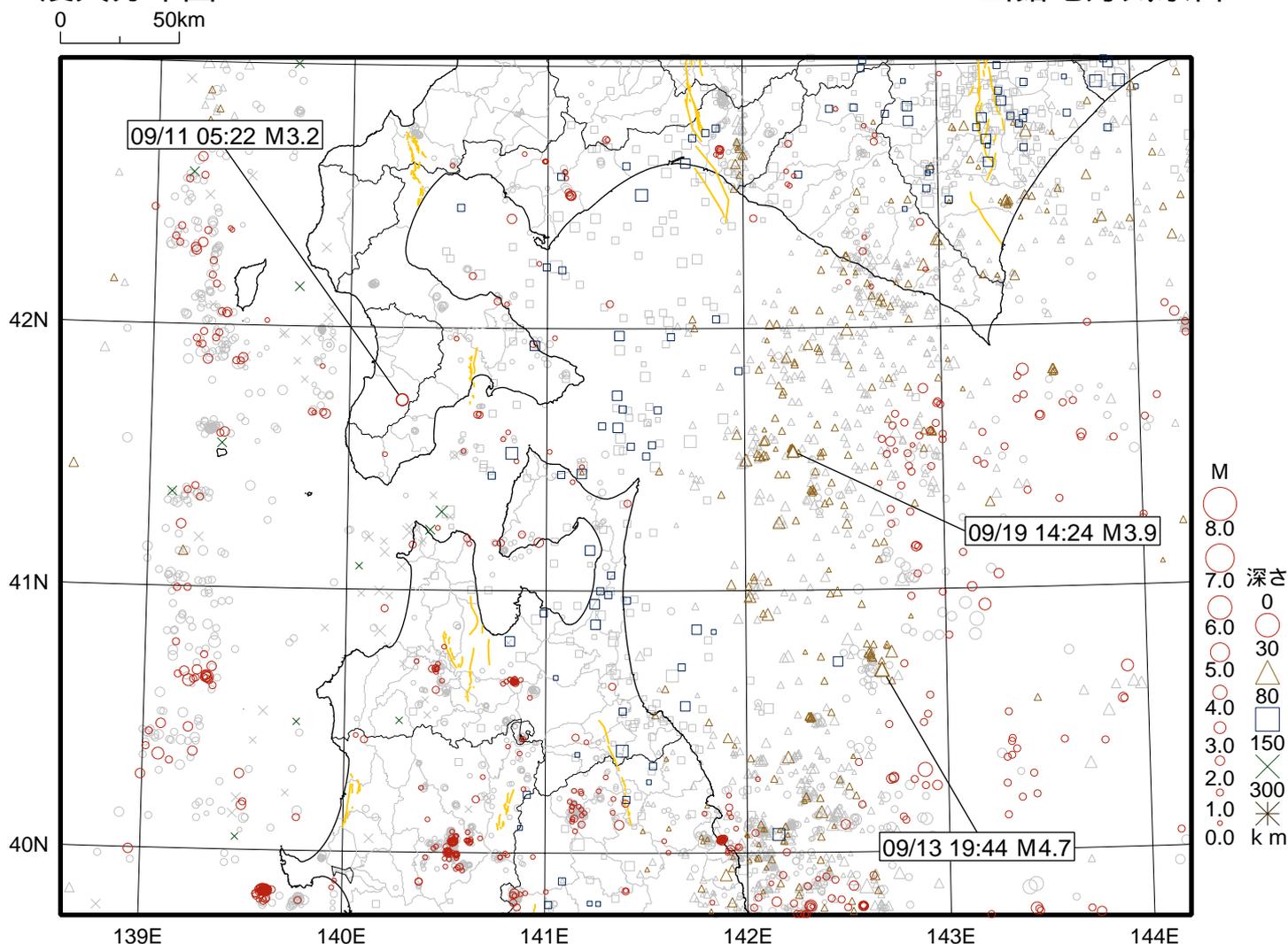


# 渡島・檜山地方の地震活動図

2020年9月1日～2020年9月30日

震央分布図

函館地方気象台



これは暫定値であり、データは後日変更することがあります。  
記号Mはマグニチュードを、図中橙色の線は地震調査研究推進本部による主要活断層を表します。  
過去の地震活動と比較するため、前3ヶ月(今期間を含まない)の震央を灰色のシンボルで表します。  
2020年4月18日から、暫定的に震源精査の基準を変更しているため、それ以前と比較して微小な地震の震源決定数の変化がみられることがあります。  
2020年9月以降の地震は、それ以前と比較して、処理方法の違い等により、震源の見かけ上の位置や震源決定数に変化がみられることがあります。

## 地震概況 (2020年9月)

この期間、渡島・檜山地方の震度観測点で震度1以上を観測した地震は4回(8月は2回)でした(詳細は「震度1以上を観測した地震の表」参照)。

11日05時22分、檜山地方の地震(M3.2、深さ12km)により、上ノ国町で震度2、厚沢部町、乙部町、木古内町で震度1を観測しました。

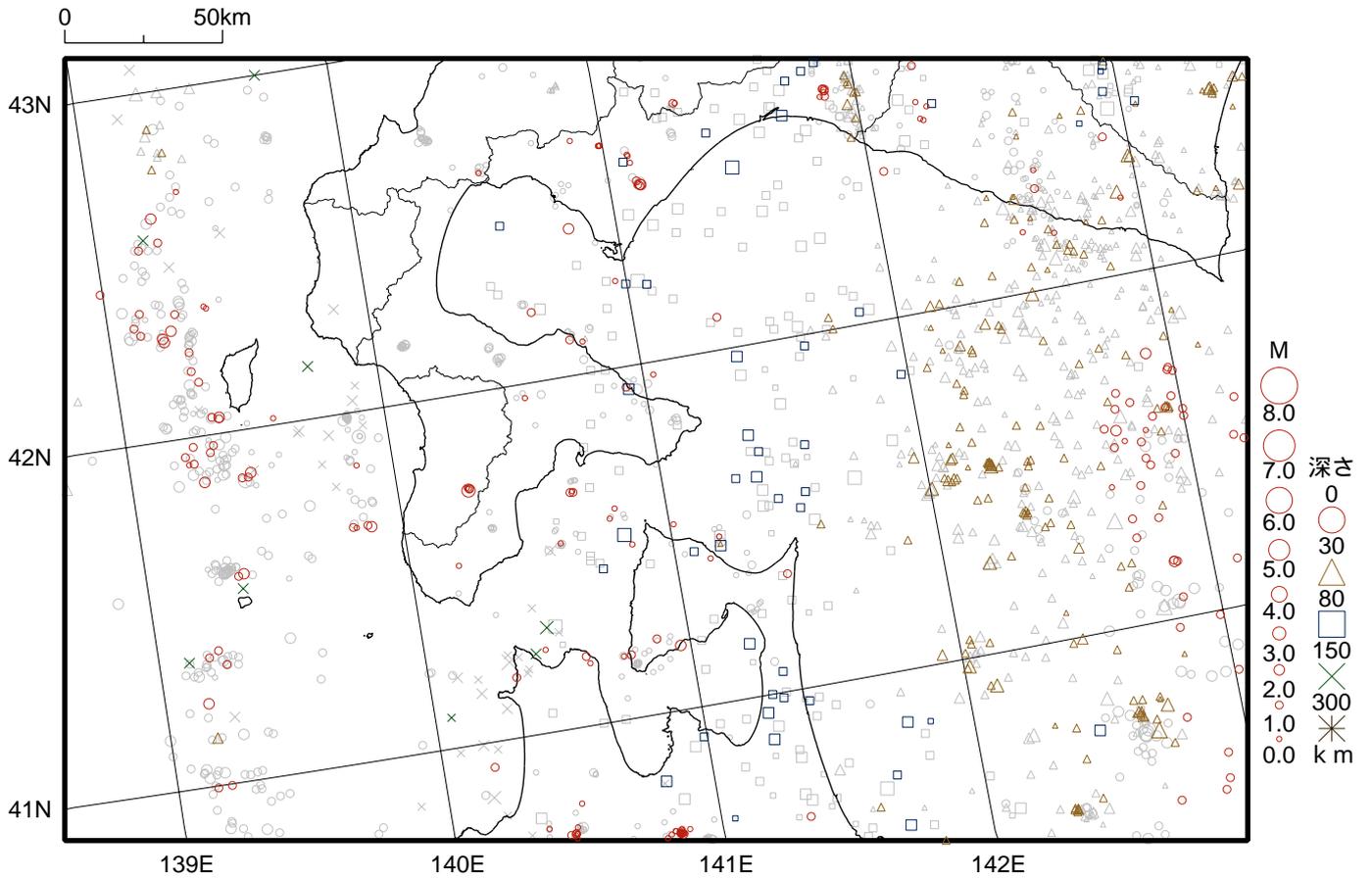
12日11時44分、宮城県沖の地震(M6.2、深さ43km、震央分布図の範囲外)により、函館市新浜町、木古内町で震度2、函館市泊町、福島町で震度1を観測しました。

13日19時44分、青森県東方沖の地震(M4.7、深さ41km)により、函館市新浜町で震度2、函館市泊町で震度1を観測しました。

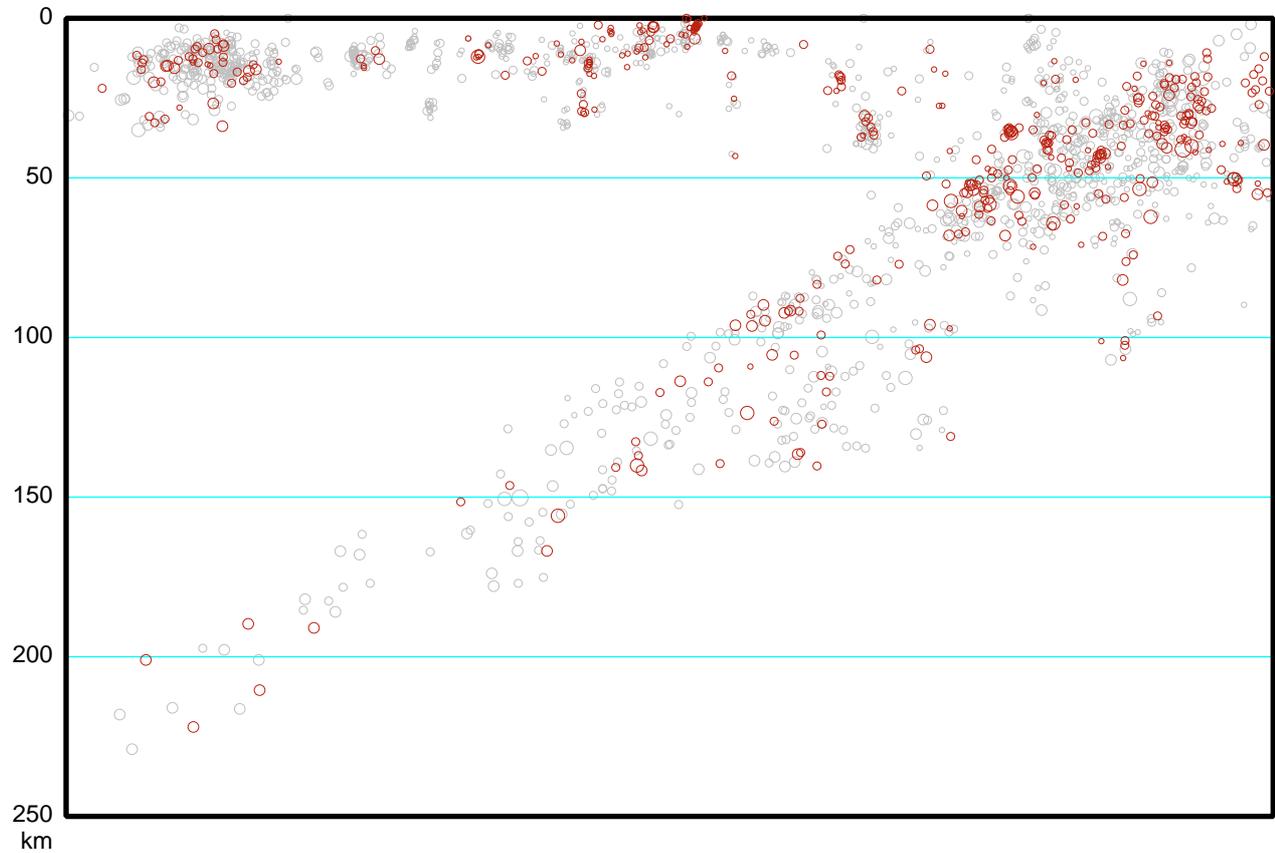
この活動図は、函館地方気象台のホームページに掲載しておりますのでご利用ください。  
ホームページのアドレスは、「<https://www.jma-net.go.jp/hakodate-c/>」です。

2020年9月1日 ~ 2020年9月30日

# 震央分布図



# 断面図



これは暫定値であり、データは後日変更することがあります。

記号Mはマグニチュードを表します。

過去の地震活動と比較するため、前3ヶ月(今期間を含まない)の震央を灰色のシンボルで表します。

2020年4月18日から、暫定的に震源精査の基準を変更しているため、それ以前と比較して微小な地震の震源決定数の変化がみられることがあります。

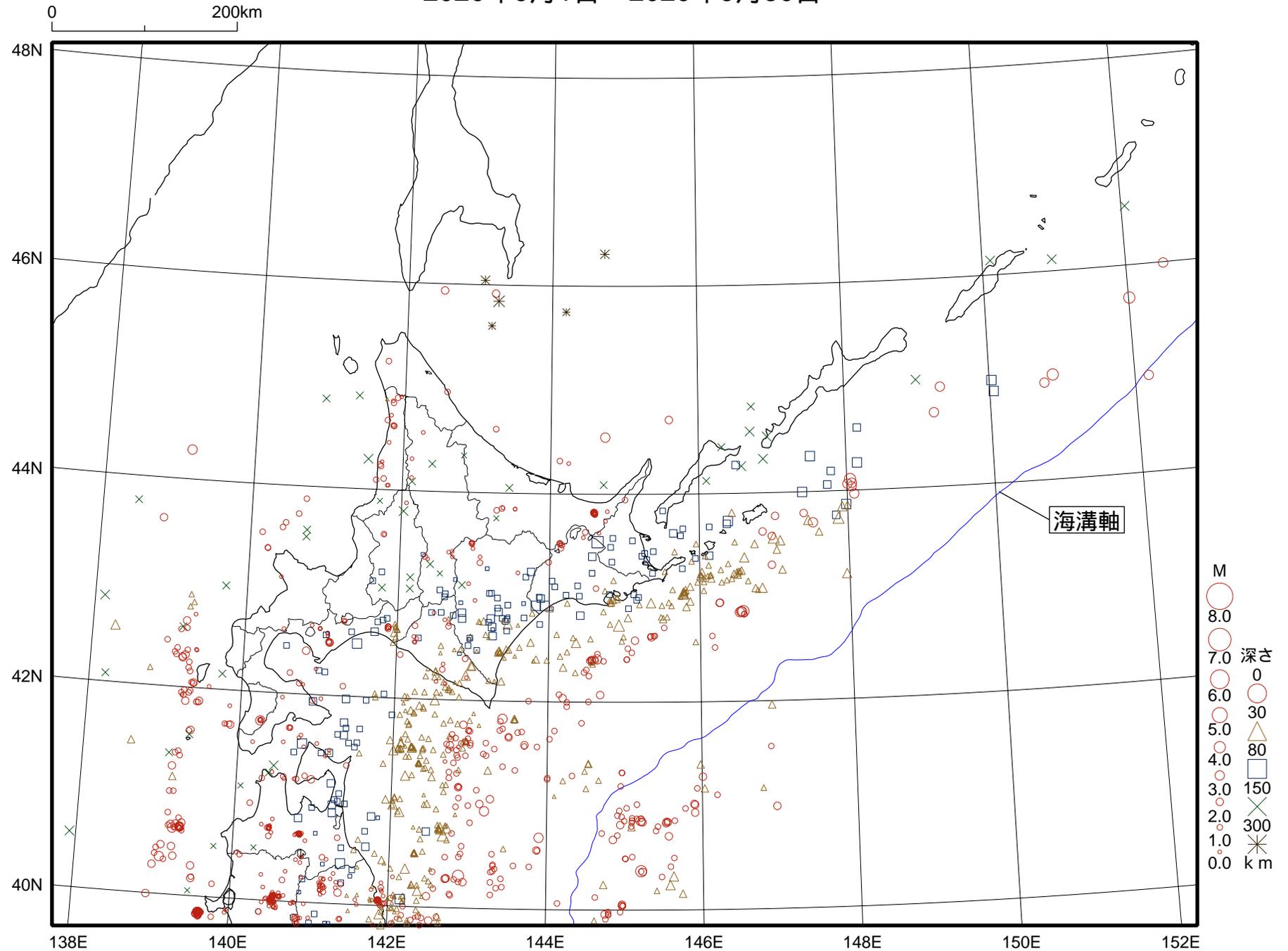
2020年9月以降の地震は、それ以前と比較して、処理方法の違い等により、震源の見かけ上の位置や震源決定数に変化がみられることがあります。

# 北海道の地震活動図

2020年9月1日～2020年9月30日

札幌管区気象台

震央分布図



2020年4月18日から、暫定的に震源精査の基準を変更しているため、それ以前と比較して微小な地震の震源決定数の変化がみられることがあります。

## 震度 1 以上を観測した地震の表 (2020年9月)

年 月 日 地方	時 分 震度	震央地名 震度観測点名	北緯 (N)	東経 (E)	深さ (km)	規模 (M)
2020年 9月11日 檜山地方 渡島地方	05時22分 震度 2 震度 1	檜山地方 上ノ国町大留* (16) 上ノ国町湯ノ岱* (13) 乙部町緑町* (10) 木古内町木古内* (11)	41° 43.4 N	140° 16.0 E	12 km	M3.2
2020年 9月12日 渡島地方	11時44分 震度 2 震度 1	宮城県沖 函館市新浜町* (18) 函館市泊町* (13) 木古内町木古内* (15) 福島町福島* (06)	38° 43.3 N	142° 16.2 E	43 km	M6.2
2020年 9月13日 渡島地方	19時44分 震度 2 震度 1	青森県東方沖 函館市新浜町* (15) 函館市泊町* (13)	40° 41.7 N	142° 40.6 E	41 km	M4.7
2020年 9月19日 渡島地方	14時24分 震度 1	青森県東方沖 函館市泊町* (10)	41° 31.8 N	142° 14.6 E	36 km	M3.9

各地の震度は、渡島・檜山地方のみを掲載しています。

\* のついている地点は地方公共団体または国立研究開発法人防災科学技術研究所の震度観測点です。

地震概況ではセントロイドの深さで表現した地震が含まれている場合があります。

震源の緯度、経度、深さ、規模は暫定値であり、データは後日変更することがあります。

( )内の数値は0.1単位の詳細な震度(計測震度)の小数点を省略して表しています。

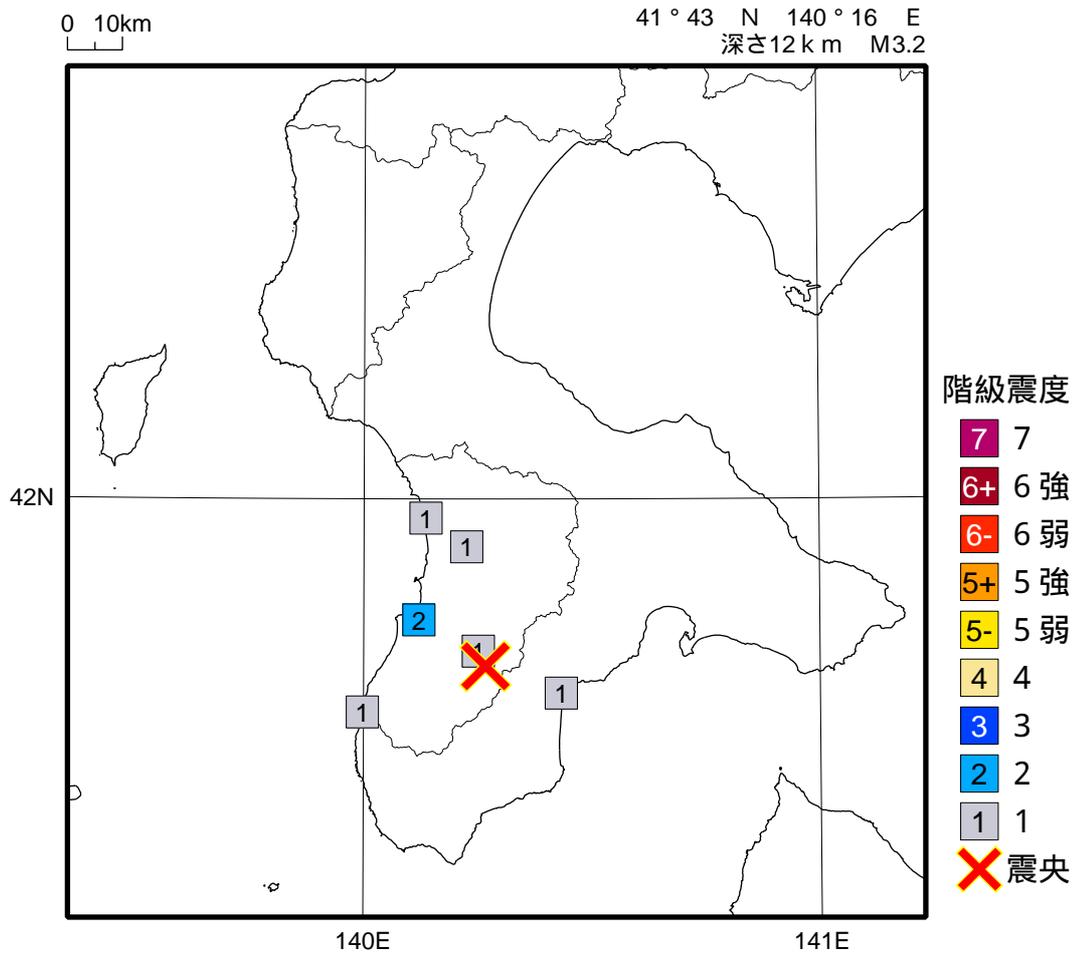
計測震度と震度階級の対応は下表のとおりになっています。

### 計測震度と震度階級の関係

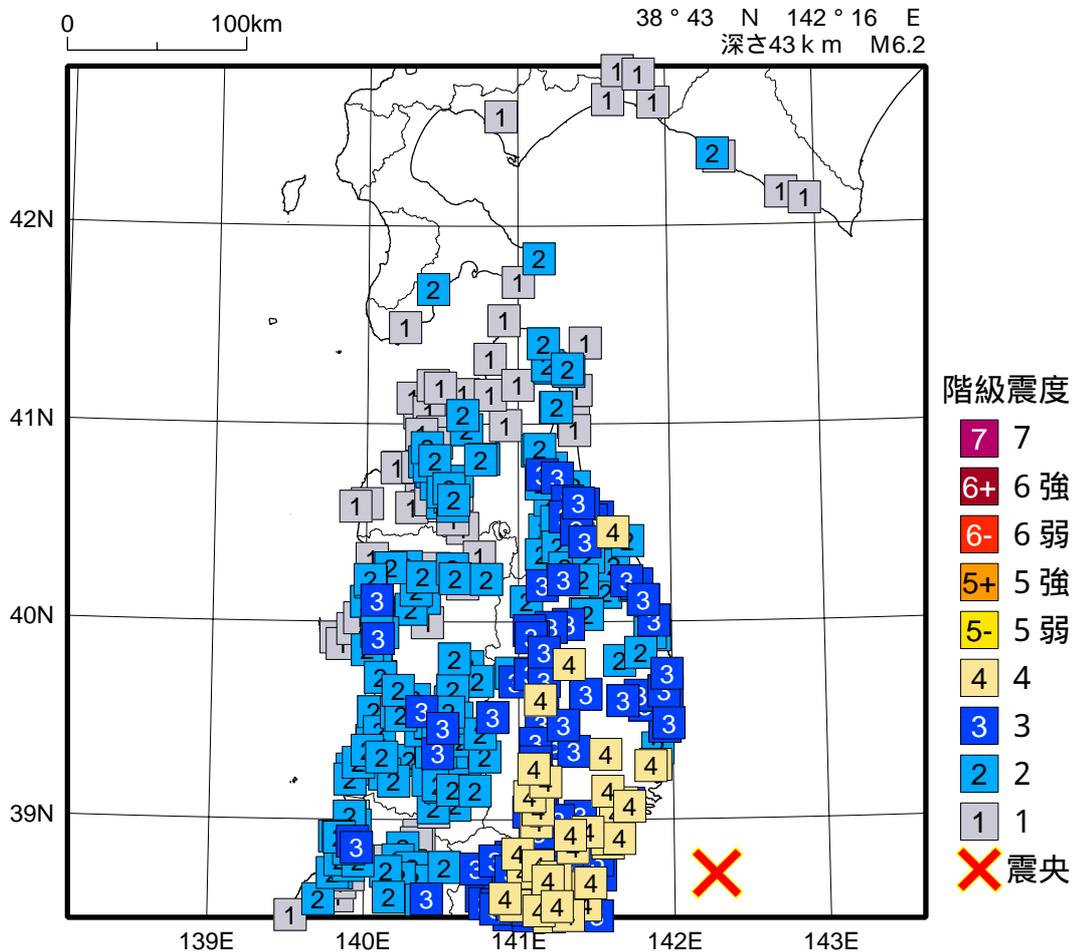
計測震度	~0.4	0.5~1.4	1.5~2.4	2.5~3.4	3.5~4.4	4.5~4.9	5.0~5.4	5.5~5.9	6.0~6.4	6.5~
震度階級	0	1	2	3	4	5弱	5強	6弱	6強	7

本資料は、国立研究開発法人防災科学技術研究所、北海道大学、弘前大学、東北大学、東京大学、名古屋大学、京都大学、高知大学、九州大学、鹿児島大学、国立研究開発法人産業技術総合研究所、国土地理院、国立研究開発法人海洋研究開発機構、公益財団法人地震予知総合研究振興会、青森県、東京都、静岡県、神奈川県温泉地学研究所及び気象庁のデータを用いて作成しています。また、2016年熊本地震合同観測グループのオンライン臨時観測点(河原、熊野座)、米国大学間地震学研究連合(IRIS)の観測点(台北、玉峰、寧安橋、玉里、台東)のデータを用いて作成しています。

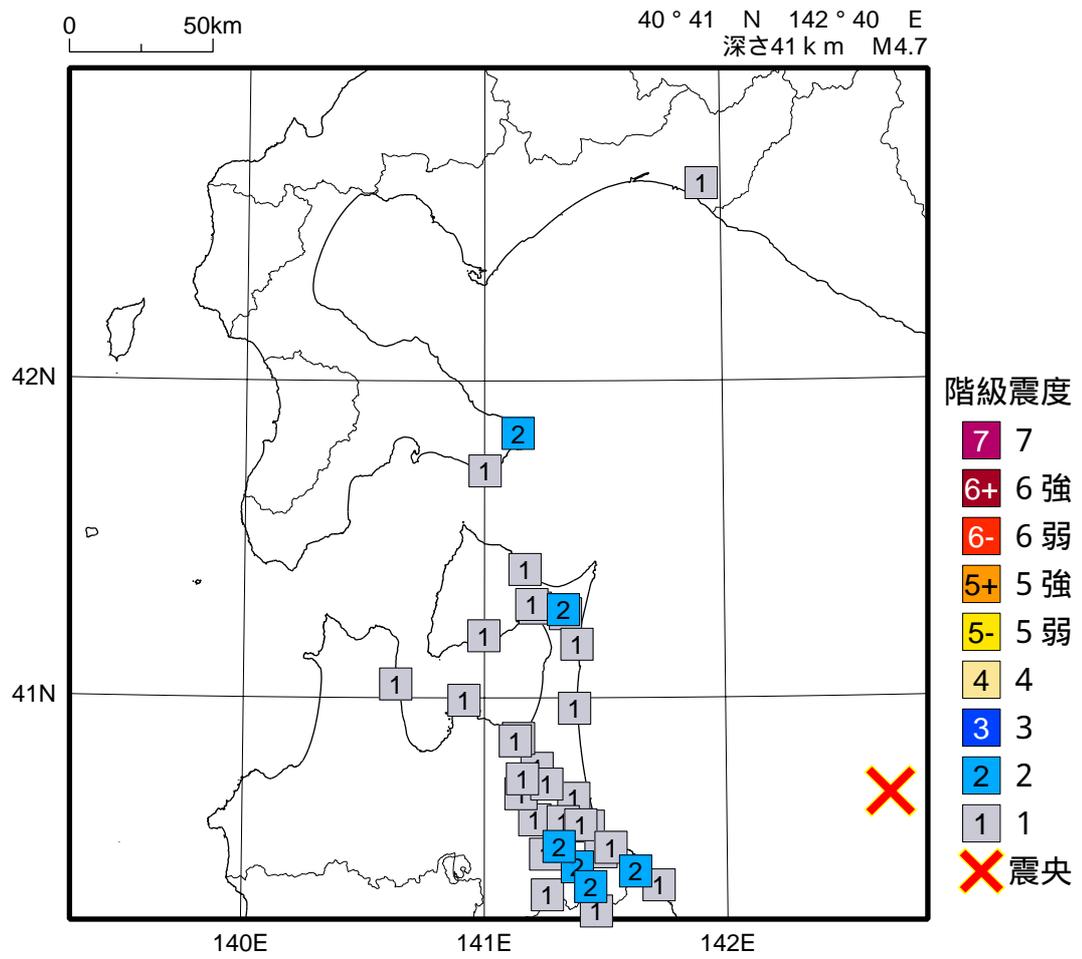
2020年 9月11日05時22分 檜山地方の地震の震度分布図



2020年 9月12日11時44分 宮城県沖の地震の震度分布図



# 2020年 9月13日19時44分 青森県東方沖の地震の震度分布図



## 【防災メモ】

# ～津波防災の日・世界津波の日～

平成23年(2011年)3月11日に発生した東日本大震災を教訓として、同年6月に、津波対策を総合的かつ効果的に推進することを目的とした「津波対策の推進に関する法律」が制定されました。その中で、国民の間に広く津波対策についての理解と関心を深めるために、11月5日を「津波防災の日」とすることが定められました。

11月5日は、1854年の安政南海地震による大津波が紀伊半島を襲った日です。その際、和歌山県にある村の郷土が、収穫したばかりの穂を積み上げた「稲むら」に火を放って、暗闇の中で逃げ遅れた村人を高台に導き多くの命を救ったという出来事がありました。この「稲むらの火」の逸話に因んで「津波防災の日」として11月5日が選ばれました。

また、日本をはじめとする世界142か国の共同提案により、平成27年(2015年)12月の国連総会において、毎年11月5日を「世界津波の日」にすることが採択され、津波防災の新たな取り組みが始まりました。

### ●津波から身を守るために

#### 危険な場所を確認しよう

津波に襲われる恐れのある場所をハザードマップや周辺地形から確認しておきましょう。



津波注意

#### 避難場所を確認しよう

津波避難ビルや津波避難場所がどこにあるか、また避難経路などを周りの人と確認しておきましょう。



津波避難ビル・津波避難場所

#### 訓練に参加しよう

実際に避難経路をたどってみるなど、積極的に訓練に参加しましょう。



図1 津波に備えてできること(気象庁パンフレット「地震と津波」より)

### ●直ちに「より高いところ」を目指して逃げよう

津波はとても速いので、津波を見てから逃げたのでは間に合いません。津波は海の深いところではジェット機ぐらいの速さで襲ってきます。「車で逃げれば大丈夫」と思っていませんか?車を利用した場合、渋滞などにより円滑に避難できない恐れがあります。原則、徒歩で避難しましょう。

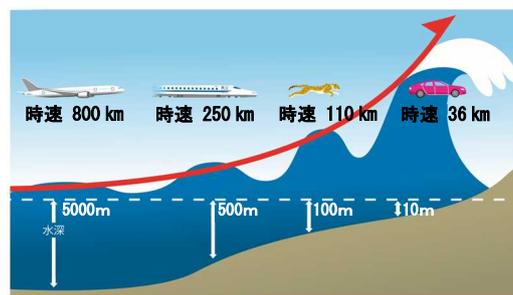


図2 水深と津波の速さ

### ●避難所ではなく目指すところは避難場所!

(気象庁リーフレット「津波防災」より)

いつどこで津波の被害に遭うか分かりません。津波から逃れるために、お住まいの地域や旅行先の「津波の避難場所」を確認しておきましょう。また、日頃から色々な場面を考えて、避難経路やいざという時の行動などを家族や周りの人と話し合っておくことが大切です。(避難所はその後の避難生活を送るための場所なので、切迫した災害の危険から逃れる避難場所とは違います。)